



私の好きな場所

My favorite Place

NPO法人桜島ミュージアム

濱平 ^{あや}彩さん

昭和54年生まれ。鹿児島大学農学部の砂防学研究室に所属し、主に森林水文学を専攻。卒業後、県外で建設コンサルタント会社に就職したが、自分自身と自然環境との関わり方について見直したいと一念発起し退職。

その後、静岡と東京で日本の環境教育の研修を1年間受講した後、活動の舞台として桜島を選び、現在NPO法人桜島ミュージアムのスタッフとして活動中。



自分自身と向き合う場所

私が桜島を選んだ理由

東桜島地区にある湯之港―持木港の間は、私がお勧めするスポット。ありふれた日常の中で見過ごしがちな場所ですが、この地区の匂いやたたずまいを繊細に映し出すその表情は、日々の喧騒を忘れさせてくれます。

この場所に来ていつも思うことは、「私って贅沢だなあ」ということです。

世界中を飛び回っている人のことを「すごいな」「うらやましいな」と思うことが多いのですが、そのような人たちはこの場所のことを知らないし、知っていたとしても、夕暮れ時に気ままに散歩することはできません。そのようなとき、「この場所を選んでよかったなあ」とつくづく思います。

「隣の芝生は青く見える」ということわざがあります。「他人のものは何でもよく見える」という意味ですが、私も隣の芝生が青々と茂つてみえることがよくあります。

しかし、実際に隣の芝生を間近で見ると、自分の芝生も捨てたものではないということに気付かされます。この場所は、自分の選んだ道が正しかったのだということを書いて聞かせるための場所でもあります。

この場所の魅力を改めて考えてみると、

港から見える海の景色や山の形、集落の様子、アコウの並木道、沖小島の眺めなどが挙げられます。どれもただそこにあるだけの



この地区を長年見守る樹齢130年を越えるアコウの木

景色ですが、心が癒されます。

また、波の音やトビの鳴き声などの自然の音、少し離れたところから聞こえてくる車や人が生活している音なども趣があつて魅力的だと思えます。

私は時間があるときには、この場所を訪れるようにしています。自宅が近いこともあり、ランニングやノルディックウォーキング、キャッチボールなどをしたり、時には友人と一緒に缶ビールとおつまみを買って、防波堤の上で夕日を眺めながらお酒を飲んだり、自分の好きなことをして過ごしています。

今後の桜島ミュージアムでの仕事に向けて

桜島ミュージアムでは、自分が面白いと思つたことを仕事として取り組める環境があり、とてもやりがいのある仕事だと思つて

います。ただ、面白いだけでは仕事にはならないため、雑務からイベントの企画・運営までさまざまな仕事に幅広く取り組んでいきます。

日々の仕事に追われていると「そもそも自分のやりたかつた仕事は何だったのか」と目的を見失うことがあります。

そのようなときは、「自分のやりたかつた仕事は何か」「手段が目的となっていないか」など、この場所に来て改めて自分自身のことを見つめ直すように心掛けています。とはいもの、いつも目の前のことにとらわれてしまい、目的がおろそかになっていることが多いのが現状です。

そんな気持ちに気付かせてくれたこの場所は、これからもずっと私の一番好きな所になりそうです。

今後は心にゆとりを持ち、自分の芝生を青々と茂らせるように、「自分のやりたい仕事」に全力で取り組めるよう心掛けたいと思います。



湯之港付近から桜島を望む